



「新たな時代への挑戦」
道南農業経営者育成対策協議会

会長 森 隆 志



当協議会会員ならびに各関係機関の皆様には、日頃より当協議会の活動に対しご理解とご協力を賜り厚く感謝いたします。

さて、我が国の経済は、幅広い分野での物価上昇により実質購買力の低下が顕著である一方で、外的要因のインバウンド需要がけん引となり、経済活動が上向き傾向の一面を見せております。その一方では、インバ

ウンド消費が農畜産物消費へ大きな影響を与えたことが昨年の「令和の米騒動」の一つの要因ともされており、国内の消費動向については、外食産業は上向き傾向であります。家庭消費は物価高の背景を受け抑制されている状況にあります。

また、農畜産物の生産現場においては、燃料・肥料・飼料をはじめとした各種生産コストが高止まり傾向にあり、加えて流通コスト・人件費といった諸経費等の上昇にも歯止めが掛からないのが現状であり、更に近年では猛暑や集中豪雨・曇天による日照不足・局地的な水不足など、気候変動による生産環境の変化が著しく、農業経営においては年を追うごとに厳しさを増しております。

当管内においても、農業経営者の減少・高齢化・担い手不足・耕作放棄地等により、生産基盤の減少や地域農業の弱体化が懸念される中、農地保全や地域コミュニティの維持が急務となっております。このような課題を乗り越えるためには、各関係

機関と密接な連携を図りながら、地域担い手の育成強化と並行した外国人材の活用による労働力確保、スマート農業技術による農作業の省力化と併せたDX(デジタル・トランスフォーメーション)による作業効率化、地域一体となったスケールメリットを生かすことによる各種生産コストの低減対応、SDGs(持続可能な開発目標)に則した取組みによる農業経営が今後は大いに求められるものと考えております。

このような状況の下であります。この一年間も生徒の皆様、保護者、ご家族、教育現場の諸先生方におかれましては、様々な行事活動の実践には一言では言い表せない感情であります。

そして三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは、この大切な三年間の学びと経験を、今後も世界的に農業生産環境が多様に変化する「新たな時代への挑戦」について大いに期待しております。最後になりますが、当協議会に多大なるご支援・ご協力を賜った各市町村、関係機関の皆様と共に、校長先生をはじめ教職員の皆様には農業経営後継者の育成指導に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

「農業経営者として未来を築く」
北海道大野農業高等学校

校長 仲川 敏 幸



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年間の学業生活を終え、大野農業高校を無事旅立つ卒業生の晴れの姿を見ることができました。心より祝福を贈りたいと思います。また、日頃から本校の教育に對しまして多大なるご理解とご支援を頂きました。道南農業経営者育成協議会関係の皆様には、心より感謝とお礼を申し上げます。時期や内容を見直しながらも、一通りの事業を実施することができました。研修として訪問をお受けいただいた関係機関の皆様には、重ねてお礼申し上げます。

さて、農業分野では技術の進化が進んでいます。ドローンやセンサー

を活用した農作物の監視、AIを活用した土壌分析、自動化された農業機械など、最先端の技術が導入されています。これらの技術は、効率的で持続可能な農業経営を実現するために重要です。また、環境保護と持続可能な農業の実現は、現代の農業において重要な課題です。農薬や化学肥料の使用を減らし、自然環境に配慮した農業技術を導入することで、環境に優しい農業を推進する必要があります。そして、気候変動は農業に大きな影響を与えています。異常気象や極端な気候条件は、農作物の生産に直接影響を及ぼし、収穫量の減少や品質の低下を引き起こすことがあります。例えば、猛暑や豪雨、乾燥などが頻繁に発生し、農作物の成長に必要な条件を変動させています。これらの進化や持続可能性、環境変化はこれからの時代を生きる農業経営者として熟知し、自分なりの考えを持つ必要性があります。そのきっかけとして本協議会の事業が皆さんに影響を与え、諸問題等について考えるきっかけとなったことでしょうか。

今年度の道南農業経営者育成対策協議会の最後の事業として一月三十一日に実施した研修報告会・就農等激励会では、農業改良普及センター様・北斗市農業振興センター様を会場として行った「関係機関の訪問研

修」の報告。道央方面へ出かけ、北広島市Fビレッジ内でICTをフルに活用した生産施設を見学できる「クボタアグリフロント」を含めた「広域視察研修」の研修報告。講師として710candle代表和泉詩織様を招き、貴重な経験や社会に出てからの活動や心構えなどについて話を伺った「農業講演会」の研修報告。これらの研修会に参加した生徒八名の他に農業系専門学校に進学する三名、農業系の職業へ就職する三名、その内、当日参加のできなかった生徒四名は動画により進路報告を行い激励を受けました。若くて意欲のある皆さんは、学業や研修で学び培った多くの知識と技術、仲間との間で築いたネットワーク等、持てる力を十分に発揮し、将来の地域産業をリードする担い手として、大きく成長してくれることを期待しています。

結びに渡島、檜山管内市町村をはじめ関係機関の皆様におかれましては、今後とも本校の農業経営者教育推進のため、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「未来を拓く」
渡島農業改良普及センター

所長 植村 美德



三年生の皆さん、ご卒業誠におめでとございます。三年間の高校生生活を終え、これから始まる新たな章へのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

道南唯一の農業専門学校。大野農業高校は、長年にわたり、北海道の農業を担う人材を育成してきた歴史と伝統のある学校です。卒業生の皆さんには、この学校で農業の基礎を学び、実践的な経験を積んでこられたことと思います。

道南農業経営者育成対策協議会では渡島・檜山管内の市・町をはじめ関係機関支援のもと、農業後継者の育成・確保を図っています。関係機関訪問では、農業改良普及センターでも、渡島農業の概要や普及センターの業務について学んでいただきました。渡島農業の特徴として水稲ふっくりんこをはじめとし、ながねぎ、なら、カーネーション、酪農など様々な農業が盛んに行われていること。

土壌診断の重要さや施肥設計に関すること。全道には普及職員約300人が、四十四か所の事務所、道農政部、道立農業大学校、道立総合研究機構（農業試験場）に配置されていることなど。今後も皆さまの活動を支援させていただきます。

将来、親元就農や農業法人へ就職、農業関係の大学への進学など、農業に関わることになると思います。農業を取り巻く環境は、年々変化しています。気候変動に伴う地球温暖化や集中豪雨、少子高齢化による労働力不足、生産資材価格の高騰、そして、食の安全に対する意識の高まりなど、課題が山積しています。様々な困難に直面することがあるかもしれません。慣れない環境での人間関係、仕事のプレッシャー、思い通りに行かないことなど、悩みはつきないでしょう。そんなときは、決して一人で悩まず、周りの人を頼ってください。家族や友人、職場の先輩や同僚、学校の先生、J.A.市・町・普及センターの職員など、農業に携わる人と連携し、支え合いながら日本の食料と農業を盛り上げていきましょう。また、皆さんには、地域振興の中核を担う存在として期待しています。

最後に、育成対策協議会の皆さまには、長年にわたり、農業後継者を育成されてきたことに対し、改めて深く感謝申し上げます。みなさんの熱意と献身的な活動が、地域の農業の未来を支えています。引き続き尽力を賜りますようお願い申し上げます。

農業経営予定者研修に 参加して

園芸福祉科三年 立川 明

私たちは、十月に行われた農業経営者育成研修で渡島農業改良普及センターへ赴き、渡島農業の概要や、普及センターの業務についての研修を行いました。

本研修を通して農業改良普及センターや地域農業の概要を把握し、土壤の科学的な診断方法や活用方法を学びました。

はじめに、農業改良普及センターの役割や、渡島農業の概要について説明を受けました。同じ渡島管内でも北部や駒ヶ岳地域、中央部や南西部で異なる農業を営んでいることを知りました。

普及センターの施設見学では、施設の役割について教えていただきました。土壤診断の基礎ということや、土壌分析機械を実際に見せていただいたりもしました。検査に使う薬品は十三〜十五種類あり、機械に数千円かかるなど、驚くことがたくさんありました。年間三千件以上の依頼があるため、込み合う時期は北斗市の農家さんを優先するなどの工夫をしているそうです。大農も土壌分析を依頼しているのか、どのようにして分析されているのかを知ることができて面白かったです。

その後も圃場内の土壌硬度測定について教えていただきました。貫入式硬度計を用いて土の硬さを測定しました。実際にやってみると硬い場所では力があることなどがわかりました。数値データとしてすぐ見られることがわかり、これが作物の生育につながるということがわかりました。

午後からは、土壌診断の基礎実験を行いました。二人一組でチームをつくり、それぞれ土に水を加えて振り、機械に通すなどして私達の手で分析をしました。その後、アレニウス係数を用いて実際にpH矯正の計算を行いました。目標を設定したうえで施肥量を測定する計算問題に挑戦し、重要性を理解しました。

今回の研修では多くの普及センターの方々にご指導していただき、大変充実した一日となりました。質問も活発に飛び交い、多くの発見もありました。個人的に道南での有機果樹栽培が難しい理由が、「道南には本州よりの虫が多く、北海道でメジャーな害虫対策が役立つ」とことや、「湿度が高く、病気になるやすい」「使える農薬がとて少ない」ことであるのを教えてもらったことが記憶に残っています。本研修で得たことを今後に活かしていきたいです。

大野農業高校に入ってから初めて普及センターに関することを学んだので、分からないことも多々ありましたが、今回の訪問研修で知らなかった情報が手に入り、視野を広げることができました。また、普及セン

ターは、すべての農業を支えるとても重要な仕事であることを改めて感じることができました。

私たちも進学後、あるいは卒業後、何らかの形であらゆる地域の農業に貢献することができるよう努力してまいります。農業を学ぶ場を設けてくださりありがとうございます。

広域視察研修に参加して

農業科学科三年 佐藤 源

本研修の目的は、農業関連施設や加工施設等を視察し将来の自家経営の一助とすることでした。まず一日目は、北広島市にある北海道ボールパークFビレッジのクボタアグリフロントに行きました。クボタアグリフロントは食と農業の未来を志向する仲間づくりの場をコンセプトとしており建物がまず大きく全体が硝子できておりとても圧倒されました。お昼ごはんはクボタアグリフロント内のカフェで野菜ザクザクミネストローネをいただきました。食べた野菜はクボタアグリフロント内で生産された野菜でもおいしくいただきました。研修では農業のシミュレーションゲームのアグリクエストを通して生産、流通、消費のバランスの大切さや「作る」「売る」ことを意識した農業経営を楽しみながら学ぶ

ことができました。また植物工場を視察した際には人と作物と地球に優しいガラスハウスや完全閉鎖式植物生産装置など最先端の技術を見ることもでき、これからのスマート農業やアグリテックの発展にとっても興味が増えました。最後はおにぎりを食べながら食への感謝や農業の多様性を学ぶことができとても楽しい研修になりました。

次に江別市にある酪農学園大学に行きました。酪農学園大学の主な研修は施設見学と大学紹介でした。高校にはないとても大きな施設や設備があり作物生産ステーション内で北海道のお米の歴史をハウス内で見学させていただきました。

二日目は、まず北海道農販株式会社で研修をしました。農業には欠かせないマルチフィルムやビニールを作っており日々使っている備品がどのようにしてできているのかを学ぶことができました。様々な作物に合わせたマルチも作っており汎用性の高さにとて驚きました。

次に越浦パイプセンターでは、ハウスなどに使われる様々なパイプを見学させてもらいました。パイプの一つが大きさも形もバラバラのなか手作業での溶接がされており普段何気なく入っているハウスがどのようにしてできているのかを知ることができとても良い研修になりました。最後にキリンビール千歳工場研

地域を担う農業経営者たち

農業科学科三年 阿保 友馬



修させていただきました。この工場では一番搾りなどの有名なお酒を作っており、実際に工場内を見学しているとともに大きな醸造タンクや実際にホップや麦芽ジュースなどをいただきました。

全体を通して様々な側面から農業を見ることができ、農業の基礎から発展、農業関連施設や販売施設での研修をし将来につながるとても良い研修になりました。

今回の訪問研修で知らなかった情報が手に入り、視野を広げることができました。そして、将来何らかの形で地域の農業に貢献することができると努力してまいります。農業を学ぶ場を設けてくださりありがとうございました。

○今後の抱負

私は将来、肉牛農家を経営したいと考えています。そう思うようになった理由は、去年の十月にインターシップで三日間地元の肉牛農家さんのところに行く機会があり、その際今まで乳牛の実習しか経験したことのない私はすべてが新鮮に感じました。それから肉牛農家という職業に興味をわき、調べていくうちに各地で肉牛の育て方、えさの種類が違うことをしり、全国各地に行きいろいろな牛を見てみたいと思いました。ですが思い立ったはいいものの、知り合いなどが一切いなかったので最初はすごく苦労しましたが、畜産協会に電話を掛けることや、現地に足を運ぶことなどを積極的に行いました。そのかいもあり四月から熊本県西原村の熊本系あかうし肥育農家に就職することに決まりました。

これまで学んできたことを発揮することも大事ですが、いろいろなプライドは捨て、様々なことを柔軟に吸収することを目指し、知識をつけ、二十代での肉牛農場経営に向けて努力したいと考えています。

○印象に残った研修

私が一番印象に残った研修先は、農業改良普及センターです。そこでは、普及センターの役割や、渡島全体の土壌の特徴などをグラフや図を使い、わかりやすく教えていただきました。土壌分析体験の際には、堆

肥をはじめ様々なところから、採取した土を使用し、pHなどを測る経験や土の硬さを測る器具を使わせていただきとても新鮮に感じました。その時は知らなかったですが、後から器具、機械の値段の話聞き、もし壊していたらと考えてしまい背筋が凍りました。今回の専門的な土壌についての知識や施肥量について学び、私の知らない農業の世界がまだまだあるのだと知りました。

訪問研修、広域育成研修で学んだことを忘れず、今後の活動で生かせるよう努力していきたいと思えます。

農業科学科三年 太田 博温



○今後の抱負

私は、大野農業高校での学びや気づきを活かし、将来はバイヤーのような職種に就きたいと考えています。そのために、卒業後は東京農業大学の国際食糧学部国際食農科学科へ進学します。そこでは大野農業高校で学んだ一次産業への知識や経験をもっと深めていくだけでなく、二次産

○印象に残った研修

業や三次産業も一緒に学んでいき二次産業について学習していきたいと考えています。その中で、今回の農業経営育成者で学べたことは今後に生きていくと感じています。特に渡島改良普及センターさんの土壌分析やクボタアグリフロントさんのAIや自動化等を目にして大学在学中だけではなく今後の将来にも役に立つ知識がものすごく詰まっていました。自分も将来、自分たちのような農業高校生だけではなく消費者からも興味を持ち、一次産業を盛り上げていけるような活動を行っていきたくです。

印象に残った研修場所は越浦パイプ株式会社さんです。企業秘密で見られない部分もありましたが、自動化がかなり進んでいながらも、用途によっては手動で畳んでいるものなどもありAI化が進む中でも人にしかできないものもあるのだとわかりました。また、一次産業者の依頼を聞き入れてそれに近いものを作るために寄り添っている企業努力も見えました。マルチの中でも私たちが知っているマルチではなくどんどん新しいマルチが開発されていて自動化や製造過程が注目されがちな中で、用途に合わせていろいろな種類のもが増えていることに私はすごく興味が湧きました。授業や大学では学べないようなものが学べたことで大学

卒業後のことも意識することができました。私は、卒業後バイヤーのような職種に就きたいと考えているので、どんどん変わっていく社会についていけるように学びを深めていきたいと思っています。

農業科学科三年 小笠原 拓斗



○今後の抱負

私は春から農業ではない職業に就きます。ですが私は、休日や余った時間で祖母の土地を借り家庭菜園をしていきたいと考えています。野菜ではトマトやネギなどを栽培し作物ではサツマイモや長芋などを栽培したいと考えています。大野農業高校で命の大切さや食の重要性を学ぶことができました。農業経営育成者研修では、酪農学園大学やクボタアグリフロントの施設を見学させてもらい農業の役割や未来に向けてのスマート農業に関する技術やICTの活用方法を学びました。その他にも土壌管理や病害虫の防除、病気などの対処方法など今回の研修や学校で

深く知ることができました。それらのことを祖母の土地で土壌管理や新鮮で美味しい野菜を育てたいと考えています。今後は肥料の管理に目を向けていきたいと考えています。また老後農業に力を入れて今のうちから専門的な知識や技術、ドローン等の操作を勉強していきたいと思えました。

大野農業高校や農業経営者育成研修で学んだことを生かして頑張りたいと思います。

○印象に残った研修

私が印象に残った研修先は、クボタアグリフロントでの研修です。当施設ではシミュレーションゲームを体験させていただき農業経営者としての面白さと農業の多様性を楽しみながら学ぶことができました。ほかにも人口増加や地球環境問題、日本の就農人口の減少、フードロス問題など食と農業を取り巻く課題など知ることができたり、農業をサポートする人や携わっていく人、開発する人などの種類などを学ぶことができました。その他にも、どのように農業の課題を解決するかをチームと考えることができたりしたことや、未来に向けて何が必要なかを改めて考えることができました。酪農学園大学では校内の見学や実習場の見学をして本格的な農業の知識や技術を学べたことでより農業に興味がわきました。また高校で身につけた農

業の知識や技術を生かしていけるとも思いました。酪農学園大学では循環能楽類に興味があり、研修をすることにより病害虫や予防方法、ドローンの使用などに興味を持つことができ、これからの農業が楽しみなになりました。

農業科学科三年 佐藤 源



○今後の抱負

私は将来農業関係の職業につきたいと考えています。高校三年間を通してこれからの日本の農業をより学びたいと思い酪農学園大学に進学することを決めました。農業普及センターやクボタアグリフロントなどの研修を通して、より農業について知りたいと感じました。これからの環境に配慮した農業や異常気象への対策、作物の品種改良などの今までの勉強の応用から、農業の基礎まで学ぶことができました。大学に入学した際にはより多くのことを学ぶことができるよう日々努力していこうと思います。これからの日本の農

業に貢献できる人材になれるようにしっかりと基礎知識を身に付け応用し活用できるように精一杯努力します。

○印象に残った研修

私が一番印象に残っているのはクボタアグリフロントです。理由は完全閉鎖式植物生産装置という機械化された無人の農業を見たからです。やはりまだ自分の中でも農業は人が行うものだという認識が強い中で、完全無人という自分の中の常識をひっくり返されとても驚きました。他にも自動走行型スマート農業噴霧ロボットなど、これからの農業が抱える課題の解決に対して確実に必須になってくるような技術がありました。他にもアグリクエストというゲームを通して農業について簡単に学びながら、地球からの課題や作る・売る・食べる、のバランスを考えることなどを深く考えることができてとても良い研修になりました。次に酪農学園大学では入学した際に学ぶことができることを教えてもらいました。最初に北海道のお米の歴史について説明してもらいそこから、これからのお米の利用方法を教えてもらいました。他にも北海道で他県のお米の生産ができるかなどを学ぶことができました。学園内の施設の紹介もしてもらいより一層入学しお米の品種改良などの学びをしていきたいと思えました。本研修を通して農業にも

様々な側面がありまだまだ自分が農業初心者ということを知り知りでした。これからの農業をより知り自分自身が農業の技術の発展に貢献できるように日々努力をしていこうと思います。

農業科学科三年 塚谷 優悟



○今後の抱負

今年の抱負として、卒業前の農業高校生としての目標を考えると、まずは実践的なスキルを磨くことが重要です。農業系は理論だけでなく、実際の作業を通じて学ぶことが多い分野ですので、授業や実習を通じて、様々な野菜や家畜類の管理技術をしっかりとし身につけたいと思います。また、職場での交流を深め、実際の現場での経験を積むことも大切で、職場見学や実際の職場の人との交流を通じて知識や技術を吸収し、自分の農業に対する理解を深めることを目指します。

さらに、持続可能な農業についても学び、環境に配慮した農業の実践

を心がけたいです。これにより、将来的には地域社会に貢献できる農業者として成長したいと考えています。最後に、卒業後の進路についても真剣に考え、農業に関する専門知識を就職先でも更に深めるための準備を進めていきます。今年には自分の成長を実感できる一年にしたいと思います。

○印象に残った研修

印象に残った研修先はキリンビール工場です。キリンビール工場の研修は、非常に印象深い体験でした。工場に入ると、まずその広大な敷地と最新の設備に圧倒されました。ビールの製造過程を間近で見ることができ、原料の選定から醸造、瓶詰めまでの一連の流れを学ぶ事ができました。特に、ホップの香りが漂う醸造室では、ビールの風味がどのように生まれるのかを実感しました。

研修では、専門のスタッフから直接説明を受けることができ、彼らの情熱やこだわりを感じる事ができました。また、品質管理の重要性や、管理についても学び、企業としての責任を強く感じました。この研修を通じて、キリンビールの製品に対する理解が深まり、ビール造りの奥深さを実感しました。今後の仕事にも活かせる貴重な経験をする事ができました。

農業科学科三年 福田 亮生



○今後の抱負

私の将来の目標は「挑戦と成長です」。これまで取り組んできたことをさらに深めると同時に、新しい分野に積極的に挑戦したいと考えています。特に、スマート農業の分野において、最新技術を学びながら実践的な知識を深めていきたいと思っています。また、困難な状況に直面している力を育てることを目指します。また、時間管理や計画性を重視し、毎日少しずつでも目標に近づく努力を続けます。またコミュニケーション能力を高め、職場の方々の良好な関係を築くことを心がけます。

次に自主性と責任感の向上です。上司や同僚に頼るだけでなく、自分から課題を見つけ出し、それに向かう姿勢を大切にします。与えられた仕事をただこなすだけでなく、業務を改善するアイデアや工夫を積極的に提案し、「この人がいると職場が良くなる」と感じてもらえるような

存在を目指します

○印象に残った研修

私が一番印象に残った研修先は北広島市にあるクボタアグリフロントの研修です。ここではAIやロボットを活用した最先端の農業技術について学びました。研修の中で最も印象的だったのは、AIセンサーを搭載したロボットが作物の状態を自動的に判断し、適切なタイミングで収穫を行う技術は、作業効率を飛躍的に向上させるだけでなく、人手不足の解消の切り札にもなると感じました。また、遠隔操作やモニタリング技術を組み合わせることで農業従事者がより簡単に管理できる仕組みも学ぶことが出来ました。特に、今回見聞きした技術をどのように現場で導入し成果を最大化するかを考えることが、今後の課題だと感じました。

園芸福祉科三年 立川 明



○今後の抱負

私は将来、リンゴなどを育てる果樹農家になりたいと考えています。そのため、高校卒業後は青森県宮農学校果樹コースへ進学します。

高校で果樹専攻班として三年間活動するうちに、私はどのような果樹農家になりたいのか、どのように果物を育てていきたいのかと深く考えるようになりました。私は、緑園祭のときに笑顔で果物を買ってくれるお客さんの顔を見るのが好きです。また、環境に配慮した持続可能な農業を行いたいとも考えています。そのため、どのような販路を作るべきか、どのような知識や技術を身に付ければ良いのかを、リンゴの一大産地である青森県で学びたいと考えています。

○印象に残った研修

一番印象に残った研修先は、訪問研修時に訪問させていただいた農業改良普及センターです。研修先では、普及センターの役割や渡島農業の概要を図や表を使ってわかりやすく教えていただきました。施設見学では土壌分析に使う機械と専用の土壌分析室を視察し、土壌分析室の全ての機械を合わせて約一億円もかかることに驚愕したのを覚えています。

午後からは土壌に関する基礎実験や測定方法を実習で勉強しました。基礎実験ではある場所の土に水を加えこねることで土性を判定し、土壌

の物理性を見て学ぶことができました。ほかに、土壌診断結果の活用方法や、施用量を測定する練習問題で施肥計算の重要性に関することも学ぶことができました。今回の研修を経て、私はまだ農業に関してほんの少ししか学べていないことに気付かされました。それと同時に果樹栽培を学びたいという気持ちが一層増えたと感じています。

訪問研修、広域育成研修で学んだことを今後の活動で活かせることができたらいいなと思います。農業に関する勉強の場を設けてくださったことに感謝します。ありがとうございました。

園芸福祉科三年 西村 大地



○今後の抱負

私は高校卒業後、株式会社toroccoへ就職し、主にブドウをはじめとする果樹の栽培から収穫したブドウをワインへ醸造・加工する仕事に就きます。祖父の影響で農業に

興味を持ち大野農業高等学校に進学をしましたが、高校三年間果樹専攻班に所属することで、全国高校生ボラティアアワードでの発表や地域のワイン産業の活動を見たり、はこだてわいんととの製造など他の学校では体験できない学びがありました。多くのことを経験させていただきそれが今、大きな自信になっています。

私は自分でも勉強が苦手だと感じてきましたが、大野農業高等学校に進学して、苦手なことがあっても一生懸命取り組むことが大切なのだ実感しました。そして何よりやり続けること、やり抜くことの大切さを学ぶことができました。これらの経験から多くの人との出会いや新しい発見がたくさんありました。その出会いが私の進路実現に直結しました。

大野農業高校の先生方へは感謝の気持ちでいっぱいです。自分がやりたいと思っただけで決めた果樹栽培の仕事です。精一杯取り組み、地域のみなさんに喜んでもらえるワインづくりをしていきたいと思っています。

○印象に残った研修

私が印象に残っている研修場所は、広域視察で訪れた札幌の北広島にある北海道ポールパークFビレッジのクボタアグリフロントです。クボタアグリフロントは建物全体がガラスで建てられていてとても開放的な空間になっていて建物の中には、カフ

エがありました。

そこで食べたミネストローネがとてもおいしかったです。研修では、正面、左右の壁、床の四面でダイナミックな映像がながれる部屋で、食と農業の素晴らしさを改めて知ることができました。その他にも、農業経営のシミュレーションゲーム「アグリクエスト」では自分たちで選んだ作物をいろいろな方法で五年間の農業経営をするというシミュレーションゲームをしました。農業経営の面白さと農業の多様性について学ぶことができました。テックラボでは最先端の作物栽培を直接見ることができどのように農業の課題を解決するのかを体感することができ、とても面白かったです。アグリフロントの最後のプログラムでは、食への感謝の気持ちを込めてお米を食べました。アグリフロントでは農業の難しさを改めて知ることができ、貴重な体験をすることができてよかったです。

令和六年度 事業報告

五月十日

農業経営予定生徒名簿作成
農業経営把握学習等

五月二十二日

道南農業経営者育成対策協議会
年度始総会

十月二日

関係機関訪問研修

(農業改良普及センター)

《研修内容》

・農業改良普及センターの業務内容

・渡島管内の農業の概要

・普及センター施設見学

・農業振興センター

・土壌分析室見学

十月二日

実技研修「土壌診断研修」

(農業改良普及センター)

《研修内容》

・土壌硬度の測定

・土壌pH、ECの測定

・土壌診断結果の活用方法

十一月七日～八日

広域視察研修

・クボタアグリフロント

・酪農学園大学

・北海道農販株式会社

・越浦パイプセンター

・キリンビール千歳工場

十二月十三日

農業講演会

講師 710candle代表

和泉 詩織 様

演台

「これからを生きる若者たちへ」

一月三十一日

農業経営者育成研修報告会

就農等激励会

三月一日

機関誌

農業経営者育成だより

第三十四号発刊

農業クラブ対外成績

◎ 南北北海道学校農業クラブ連盟

実績発表大会(静内農業高校)

・発表分野Ⅰ類 (出場)

農業科学科三年

大島 寛 太

農業科学科三年

小笠原 拓 斗

農業科学科三年

福田 亮 生

農業科学科二年

岡田 龍 斗

・発表分野Ⅱ類 (優秀賞)

園芸福祉科三年

立川 明

園芸福祉科三年

西村 大地

園芸福祉科二年

工藤 綾 香

・発表分野Ⅲ類 (優秀賞)

園芸福祉科三年

佐々木 爽 太

園芸福祉科三年

園芸福祉科三年

金沢 悠 陽

・クラブ活動発表 (優秀賞)

農業科学科三年

太田 博 温

農業科学科二年

椎名 果 梨

食品科学科三年

東雲 弘 道

農業科学科二年

廣瀬 樹

◎ 南北北海道学校農業クラブ連盟

意見発表大会(大野農業高校)

・発表分野Ⅰ類

食品科学科一年

海川 愛 和 (出場)

・発表分野Ⅱ類

園芸福祉科三年

立川 明 (優秀賞)

・発表分野Ⅲ類

食品科学科三年

坪田 蒼 生 (出場)

◎ 日本学校農業クラブ北海道連盟

全道技術競技大会(旭川農業高校)

・鑑定(作物)

農業科学科一年

澤口 桃 果 (優秀賞)

農業科学科一年

山崎 稜 太 (優秀賞)

農業科学科三年

三浦 翔 大 (優秀賞)

・鑑定(草花)

園芸福祉科三年

立川 明 (優秀賞)

・家畜審査(乳牛)

農業科学科二年

玉森 月 梁 (最優秀賞)

◎ 日本学校農業クラブ北海道連盟

全道実績発表大会

(岩見沢農業高校)

・発表分野Ⅱ類 (優秀賞)

園芸福祉科三年

立川 明

園芸福祉科三年

西村 大地

園芸福祉科二年

工藤 綾 香

・発表分野Ⅲ類 (出場)

園芸福祉科三年

佐々木 爽 太

園芸福祉科三年

金沢 悠 陽 (出場)

・クラブ活動発表 (出場)

農業科学科三年

太田 博 温

農業科学科二年

椎名 果 梨

食品科学科三年

東雲 弘 道

農業科学科二年

廣瀬 樹

◎ 日本学校農業クラブ北海道連盟

全道意見発表大会(美幌高校)

・発表分野Ⅱ類

園芸福祉科三年

立川 明 (出場)

◎ 日本学校農業クラブ全国大会

岩手大会

農業鑑定競技会(花巻農業高校)

・鑑定(作物)

農業科学科一年

澤口 桃 果 (出場)

・鑑定(草花)

園芸福祉科三年

立川 明 (出場)

・家畜審査(乳牛)

(くずまき高原牧場)

農業科学科二年

玉森 月 梁 (出場)